

第1学年 国語科の実践

1 単元名 おもいうかべながらよもう「くじらぐも」(全9時間 本時5時間目)

2 単元目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
- かぎの使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
- 積極的に想像力を広げて楽しみながら物語を読むことができる。

3 「ひびき合う 三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て…子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ…「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈聴く・話すについての指導〉

これまでに、「おむすびころりん」「おおきなかぶ」「やくそく」などの読み物教材を学習した。そこで、登場人物がどのように思ったか、考えたかをノートに書いたり、話したり動作化をしたりする学習を行った。1年生のこの段階では、平仮名の学習が終わり、少しずつ文を書けるようになってきている。しかし、思ったことを、文にして書いたりすることが十分にできない児童もいる。そのため、話すことを中心に「同じです。」という言葉で終わらずに、「～さんと同じで、～です。」と、自分の言葉で話せるように繰り返し意図的に指名し、一人一人が学習課題に対してしっかりと向き合い、話すことになれるように指導を行ってきた。また、考えが持てない児童に対しては、誰の考えがよいと思ったかを言わせるようにし、始めは真似をすることから取り組み自信をもたせるようにした。

また、お話を聞くことは大好きで、真剣に聞いているが、その内容のとらえ方には、個人差が大きく、感想も「おもしろい。」「かわいそう。」などと一言で終わってしまいがちな児童も多い。そこで、どうしてそのように思ったのか、なるべく本文から根拠を示し、理由を話させるようにしてきた。

まず、聴くことの大切さを指導した。入学してきた子どもたちは、学校は勉強する所と漠然と思っていたと思うが、勉強するということは、「人の話を一生懸命聴くこと」が、一番の大切な学習であることを話した。さらに、一人では考えられないことを、クラスみんなが一人一人自分の考えを出し合えば、よい考えがたくさんでること、そしてそれが学習であることも指導した。日常生活の中でも聴くこと、話すことを意識させるようにしている。話したいことがあるときは、「はい、はい、」を連呼する児童もいるため、「はい。」と一度言い、手を挙げるように学習のルールも指導している。また、挙手するときには、「同じです。」「他にもあります。」「似ています。」など、友だちの意見につなげていけるように指導しているところである。

さらに、発言に対して、反応することも指導している。「うん、うん。」と相づちを打ったり、「なるほど。」「そうか。」と同意したり、感心したりしたことを素直に表現できるように声をかけている。また、「でもさ、～」と言うように自分の考えと違う場合には、友だちの考えにつなげていけるように声を出した子を指名することで、自分の思いを伝える場を与えながら、話し合いに意欲的に関わられるように配慮している。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

話すことに抵抗がないように、朝の会で日直として司会を行ったり、号令をかけたりして、みんなの前で話す機会をつくっている。また、隣同士で相談する。自分の考えを話してみる。日常の些細なことを隣同士で話す。というような、ペアトークを取り入れ、話すことが楽しいと思えるように指導をしている。そして、考えをまとめさせる。というように段階を踏みながら、ステップアップできるように指導中である。そのために、隣同士の席やグループメンバーにも配慮をしている。

学習中に、「でもさ・・・」「だって・・・」などと友達の意見につなげていこうとする姿も見られているが、個人差が大きく、話し合いに参加できにくい児童や、声が小さい児童もいるので個人差に応じての支援が必要であるとする。話し合いがわかる児童だけで進むことなく、全体を巻き込んで進められるようにしていきたい。

4 単元と指導

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領のC（1）エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」を目標としている。場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話について、何をしたのか、なぜしたのかななどを具体的に思い描きながら、その世界を豊かに想像することを示している。

本教材は、児童が自分の日常に起きるかもしれない出来事として創造して読むことができるファンタジー作品である。場面の様子や子どもたちとくじらぐもの行動、会話などを捉え、その世界を豊かに想像し一人一人の感想を互いに共有することにより、さらに自分の考えを形成する機会としたい。1年生の子どもたちが体育の時間にくじらぐもに出会い、空の冒険をする物語である。児童にとって、自分たちと同じ1年生が大空を舞台にして活躍する内容は、共感しながら楽しんで読むことができるだろう。物語の中の台詞が少ない分、場面の様子から「自分だったらこんなことを言う。」「くじらぐもに乗ってこんなところにも行きたい。」など想像をふくらませて読むことができると考える。思い描いた互いの考えを伝え合い、より物語の世界に浸れるようにしていきたい。

〈指導について〉

今まで学習してきた「おむすびころりん」「おおきなかぶ」「やくそく」などの物語は登場人物になりきって音読したり、音読劇にしたりしてきた。その際、登場人物がどのように思ったか、考えたかをノートに書いたり、話したり動作化をしたりする学習を行ってきた。

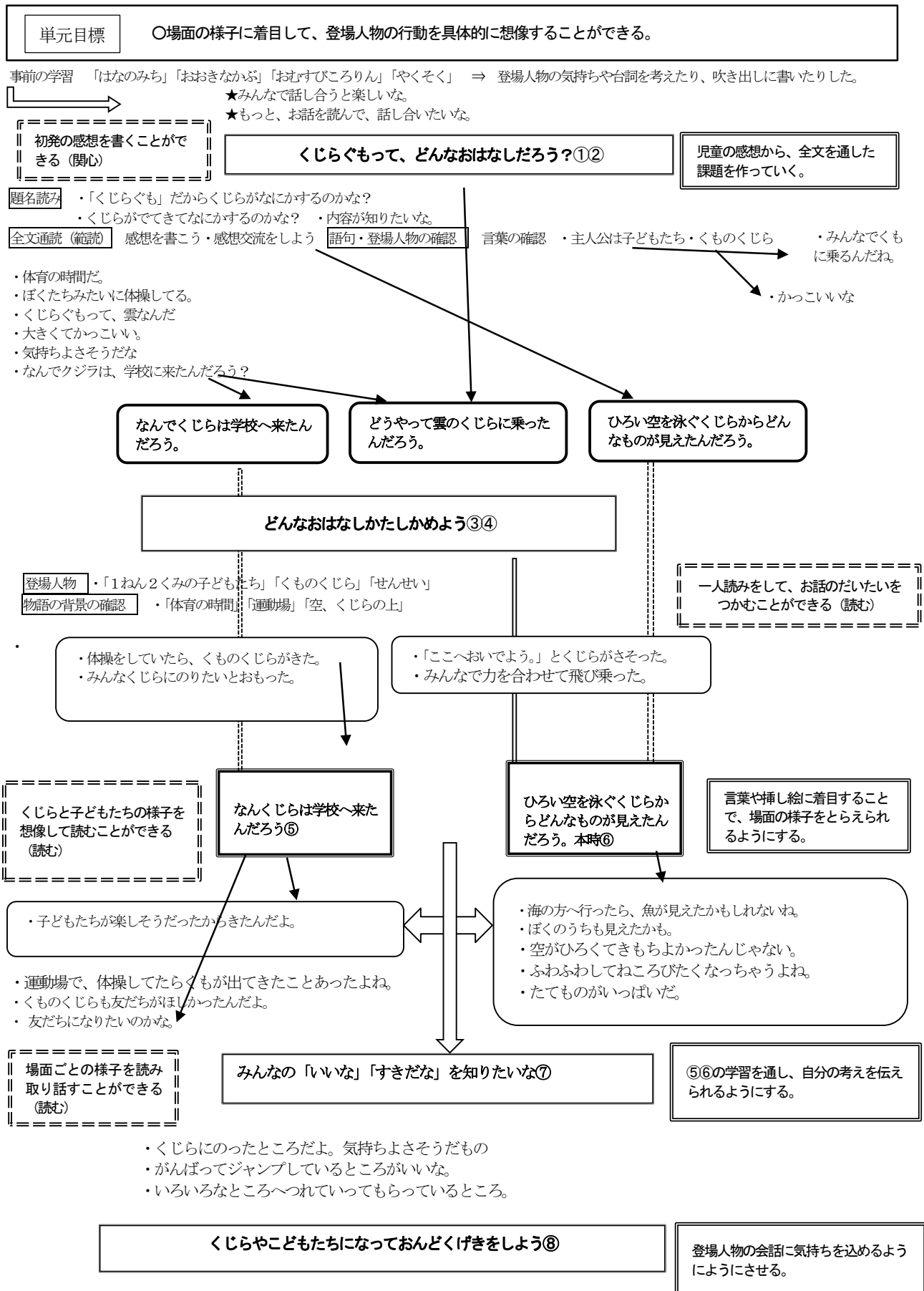
まず、物語を読んでおもしろかったことやびっくりしたこと不思議なことなど感じたことを何でも書かせ、互いに伝え合い、その中からどのように学習を進めていくかを児童と話し合って決めたいと思う。今までの物語文の学習を思い起こし、子どもたちは音読劇をしたいと思うだろう。今までは、お話の中に合った会話文の読み方を工夫したり、動作をつけたりしたが、今回は、場面ごとに子どもたちがどのような会話をしたのかを想像させ、それを音読劇に取り入れて「クラスのくじらぐも」の音読劇を単元の最終の目標にして学習に取り組ませたい。そのために、「子どもたちとくじらぐもの交流」が描かれているこの物語の世界に、子どもを十分に浸らせたい。

その中で、なんで子どもたちは、「あのくじらは学校がすきなんだね。」と言ったのか「おうい」と「おい」の違いはなんだろう。「まちとむらはなにがちがうのだろう」など、子どもたちが物語をより深く理解していくために出てきた言葉を問いかけながら、共通のイメージが持てるように確認していきたい。場面ごとに疑問を解決しながら様子を豊かに想像し、作品をより楽しんでいくために、動作化したりして読みを深めていきたい。くじらに飛び乗った子どもたちの素直な言葉を拾い、泳ぎ始めたくじらぐもから見た景色を豊かに想像し、自分の言葉で表現させていきたい。

本時では、3 場面の「子どもたちがくじらぐもに乗って空を旅する様子」を読み、劇をしたり話し合いをし

たりする。児童は、「空の上だとどんな話をするかな。何が見えるかな。」ということを考えるだろう。そこで、空の旅をしているときの、会話や台詞をみんなで共有するときに、自分の考えを素直に伝え、友達の考えに反応しながら聴く姿をひびき合いの姿としたい。

5 単元構想 国語科 「くじらぐも」



*「 」のところは気持ちをこめよう。

*くじらはそのうえだ
からゆっくり言おう

*くじらは堂々と言おう

6. 本時について

本時目標 くじらぐもに乗って空の旅をする様子を想像し、自分が考えた会話を付け加えることができる。

学習活動	主な支援・留意点
やったあ。のれたあ。 きもちいいなあ。ふわふわだあ。 かぜがきもちいいね。 うみのほうへ さかながジャンプした。 ふねもみえるよ。 うみがひかっている。きれいだね。 むらのほうへ 木がたくさん。いえがすくないね。 はたけがたくさんあるよ。たんぼもある。 まちのほうへ じぶんのいえがある。 おかあさんだ。 ひとがたくさんいるね。 たかいなあ。かぜがきもちいい。 どこまでいくんだろう。 みんな小さくみえるな。 おちないようにしないと。 くじらぐもにのつたら なんていうかな とおくまでいくぞ。 	・ 前の場面の確認をする。 ・ 音読後、クラス全体でくじらぐもに乗ったときの様子を確認する。 ・ 自分の考えを伝えられるようにし、同じことや似ていることを話せるように、友達の考えと比べながら聴くことができるようにする。 ・ 場面ごとにどのような会話を入れるかグループで相談し音読練習をする。 ◆くじらぐもに乗って空の旅をする様子を想像し、会話を考えることができる。【思考・判断・表現】

7 実践を終えて

(本時について)

「くじらぐもに乗ってみたい」「空から見たらどんな景色が広がっているんだろう」と、子どもたちは物語にどっぷりとつかって、その中の一人になりきって読み進めてきた。動作化を取り入れその時の気持ちを考えさせながら学習を進めてきたので、本時の子どもたちの気持ちは、「きっとこんなものが見えるだろう」

「こんなことを友だちと話さだろう」と思いが広がっていた。自分の考えをワークシートに書き、それをもとに話し合いを行った。自分の意見を友だちに伝えたい、友達はどうな考えをもっているだろう、と話し合いは意見がたくさん出た。

その中で、「～さんと似ています。」「他にもあります。」と、自分の意見をいつ言えばよいかを考えながら挙手をする姿も見られ、ひびき合いの姿が見られた場面である。これは毎日の授業の中で大切にしてきた、「自分の考えを伝える」ということができつつある姿であると考えている。「同じです。」で終わりにしないで、同じでも自分の言葉で伝えようという声掛けが実ってきた姿だと思う。

(成果と課題について)

子どもたちが親しみやすいファンタジーの世界に浸りやすいこの物語で、どんな想像も受け入れられるという安心感から、児童は進んで自分の意見を話すことができた。自分の考えを持つことができにくい内容もある中で、進んで発言できたということは、大きな成果であると考えている。また、物語の中に出てくる言葉を大切に学習を進めてきたことで、町のほう、村のほうという場面でのセリフを、共通のイメージをもって考えることができた。また、「教科書のここに書いてあるから」という意見が出てきたことも、本文に戻ってという国語学習の基本が見えた姿であったと思う。

また、1年生は自分でノートにまとめることは難しいので、ワークシートを場面ごとに使用した。これは児童の実態に合っていたと思う。その場面の言葉を書き込むことで、音読劇に向けてのセリフとなっていくので、グループで話し合う時の手立てになっていた。

課題としては、音読劇に向けての話し合いを本時の中でできなかったところである。話し合いのまとめとしてのグループでのセリフの話し合いは必要であったと思う。次時に行ったが自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしながらグループ独自の音読劇に向けて話し合いを行うことができた。

